

氏名：舟木耕太（福山市立神辺中学校）

現地勤務先：イニヤミッサ中等学校

カニマンボ Cani Mambo

モザンビークからの便り



Boa tarde！（こんにちは！）Feliz ano novo！（あけましておめでとうございます！）新しい一年の幕開けです。こちらでは日本の7時間遅れで新年を迎えました。今年もよろしくお願いいたします。

2014年の1年間を終えて

4月から3月までの日本と違い、1月から12月までがモザンビークの学校の一年間です。12月からは長い夏休みに入ります。この国の一大イベントであるクリスマスやお正月にワクワクしている子どもも多いです。特にクリスマスは家族と過ごす日、遠くに出稼ぎに行っていた家族も久しぶりに戻ってきて、みんなで過ごすようです。30度を越す暑い日々、サンタクロースがいるのが不思議な感じです。

さて、今年一年のイニヤミッサ中等学校での活動を終えました。数学の先生としてこの学校にやってきて、あっという間でしたが、とても濃い日々だったように思います。悩みも多い中、元気いっぱい、悩みも笑って吹き飛ばしてしまう生徒や同僚に助けられた半年でした。



この半年で、私が課題だと感じたことを紹介します。

電卓

なんと、数学の授業ではいつでも電卓が使えます。定規やコンパスではなく、電卓に頼る生徒の姿を目にしてきました。確かに電卓は便利な道具。数学は、結果だけでなく途中の考え方を大切にする教科です。しかし、便利さに頼るあまり、途中の考え方を気にしない生徒が多いと感じます。

テスト

テストの結果が大切。それは日本でも同じですが、モザンビークではテストの「結果」さえよければよいという雰囲気強い印象です。結果がよければ何をしても良いわけではないですね。テストまでの積み重ね、日々の取り組みも大切にしたいです。



担任

日本の学校と違い、担任の先生は一週間に1時間だけクラスに連絡を伝えに来ます。生徒の頑張りを認めたり、間違っているときはそれを伝えたり、クラスの集団づくりをサポートしたり、担任の先生が毎日生徒と関わることができれば…と考えることが多かったです。

2015年の目標

「努力をして、自分の力でできるようになった喜びや、途中の考え方を大切にする数学の授業をしたい！」

「集団で学ぶことの意味について、みんなで考えたい！」現在、私は今後の活動計画を立てています。

数学の先生として、自分がやりたいこと、自分にできること、そして相手にとってプラスになること…あくまでも主役はモザンビークの人です。自分の考えを押し付けるのではなく、誰のために、何のために活動するのかを現地の先生と話し合いながら、活動したいと思います。

世界遺産のモザンビーク島を訪れました

夏休みの休暇を利用して、私はモザンビークの世界遺産、モザンビーク島に行ってきました。国名にもなっているこの島には、大航海時代、ポルトガル人によって築かれた要塞や石の街並みが残されています。当時、この島はヨーロッパからアジアへの航路の重要な拠点でした。日本にキリスト教を伝えたと言われるフランシスコ・ザビエルの一行も、日本への旅の途中にこの島を訪れたそうです。

ヨーロッパ、アラビア、そして中国やインドなどの優れた文化が集まったこの島で、地元の人たちは奴隷として、この島から遠くの外国へ連れて行かれたのです。その歴史を聞くと、この島の景色がまた違って見えてきます。

建物、食事、服装など、モザンビークの文化はヨーロッパ、アジアの影響をたくさん受けています。しかしそれは、悲しい歴史と向き合うことでもあるのかもしれません。

そんな中、外国人による支配にも負けず、地元の人々によって、脈々と受け継がれてきたモザンビーク独自の文化もあります。これらの文化はモザンビークだけでなく、近くのアフリカの国と似ています。



サン・セバスティアン砦とストーンタウンの街並み。サンゴ礁の海に囲まれた、自然も豊かな島です。

絵画、ダンス、彫刻、歌…力強さを感じます。



モザンビークの人と共に生活するために

モザンビークの公用語はポルトガル語です。しかし、言葉にも他の文化と同じように、現地の人によって古くから使われてきたものがあります。私の活動している地域では、シャンガナ語という言葉が使われています。このレポートのタイトル、「Canimambo」もシャンガナ語の言葉です。学校ではもちろんポルトガル語が使われますが、学校に通えなかった人には、現地語しか通じないこともあります。

現地語ができなくても「ポルトガル語で授業をする」ことはできます。私にとって、ポルトガル語の勉強が一番大切なのは変わりませんが、現地語が使えると、地元の人と一気に距離が縮まります。

「学校の先生」というだけでなく、地域の人と一緒に生活をする一人として、この国の人とよい関係を築くことも、この国での私の目標です。日本とは大きく違う文化、価値観、歴史をもつモザンビークの人に、腹を立てることや傷つくこともよくあります。そんな時、よい関係を築くために大切なことは何だろう？と考えます。どんなに頑張っても、相手の気持ちをすべて理解することは難しいですが、相手の気持ちを知らうと努力することはできます。

今回のモザンビーク島への旅行を通して、歴史を知ることや文化に触れること、言葉を学ぶことは、相手を知らうとするための大切な一歩だと再確認できました。

